

みしま



特集◎町づくりの軌跡

第1章

生活工芸

ものづくりは生きがい

2009
11

広報みしま No. 200

写真/左から、二瓶新永さん(大登)、五十嵐文吾さん(大登)、角田キイコさん(浅岐)

雪国だからこそ 継承された生活工芸

自然から頂いた材料と、先人から受け継がれた技術。素朴な魅力にあふれ、使えば使うほど味が出る実用品。

ヒロロ細工、マタタビ細工、山ブドウ細工は、「奥会津編み組細工」と称して※国の伝統的工芸品に指定されています。その原型は、日常生活で使われてきた「かご」や「ざる」などの民具です。雪深い冬の間に、家々で作られてきました。冬は雪との戦いである一方で、生活に必要な道具を作るための大切な時間でもありました。

昭和56年に町づくりとして始まった「生活工芸運動」により、失われかけていた冬のものづくりが町民に広まりました。山仕事用のかごは、その技術と材料をそのままに、抱えバッグやショルダーバッグに生まれ変わりました。単なる日用品が町の自慢の逸品となるまでには、多くの人々の熱意と工夫がありました。そして「山村の文化を活かした理想のふるさとづくり」という大きな夢がありました。

奥会津編み組細工

作る喜び 使う喜び

作ることが楽しい
手間は惜しまない
山の恵みを頂いて
真心を込めて

※国の伝統的工芸品

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき、経済産業大臣が指定した工芸品。平成21年4月現在、全国に211品目ある。指定されるためには、①主として日常生活で使われるもの②製造過程の主要部分が手作り③伝統的技術または技法によって製造④伝統的に使用されてきた原材料⑤一定の地域で産地を形成—の要件を満たすことが必要となる。福島県内では会津塗、大堀相馬焼、会津本郷焼、奥会津編み組細工の4つが指定されている。奥会津編み組細工は平成15年に指定され、当時の新聞では「民具としては初の指定」と報道された。

山ブドウ細工

山ブドウ蔓の皮は非常に強く、刃物などを入れるかごとして使われてきました。丈夫に編まれたかごは、子や孫の世代まで長持ちします。使い込むほどにつやが出るのが特徴で、世界にたった一つの宝物に仕上がっていきます。

マタタビ細工

マタタビ蔓特有のつや、しなやかさ、水切れの良さが特徴です。米をといだり野菜を洗ったりする道具として、日常生活に欠かせないものでした。米あげざる、四つ目ざる、そばざるなどがあり、用途に応じて大きさもさまざまです。

ヒロロ細工

ヒロロの縄を縦糸に、モワダ（シナノキの薄皮）などを横糸に用いて編まれます。山仕事用のかご作りの技法を活かしたもので、さまざまなデザインのバッグが作られています。非常に細かい手仕事で、完成まで1カ月以上かかることも。

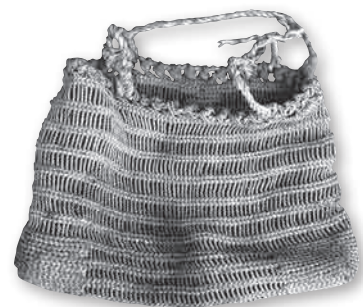
身近にあった道具の価値に気付いた

雪国の手仕事 再生の物語

高度経済成長の中、若者は農林業から離れ、冬の手仕事も途絶えようとしていました。町おこしを目指した観光土産品コンクール。山村に生きる喜びを伝えてくれた宮崎先生。生活工芸が再生した歴史を振り返ります。

転機となった昭和47年
観光土産品コンクール

マタタビのざるや、ヒロロのかごなどは、日用品として各家庭で作られていました。昭和30年代から40年代の高度経済成長期、安価なプラスチック製品が一般に普及し、手間をかけて道具を作る必要はなくなりました。多くの若



ヒロロのスカリ
(山仕事などに使うかご)

者は農業から離れ、都会へ仕事を求めました。同時に、親から子へと受け継がれてきた道具作りも途絶えました。昭和47年、町おこしのために開催された「観光土産品コンクール」が、伝統的なものづくりを見直すきっかけとなります。当時を知る齋藤茂樹町長は「じいちゃん、ばあちゃんが好きでね。自分の得意なものを山ほど作って出品してくれました。特にマタタビのざるが多かったですね。学校の二つの教室にあふれるほど作品が集まり、本当に驚きましたよ。とにかくこれを活かそうということで、当時お付き合いのあった千葉大学の宮崎先生に相談したのです」と話します。

宮崎先生の教え
生活工芸の原点

生活工芸運動を提唱した宮崎清先生（三島町名誉町民・千葉大学名誉教授）は、民具調査のために初めて三島町を訪れたときのことを「さまざまな民具が、まるで百貨店のようにたくさんありました」と振り返ります。

当時、千葉大学講師だった宮崎先生は、デザインを学ぶ工業意匠学科の学生たちを連れて民家を訪ね歩き、生活に使われている道具や、蔵の中に眠っている古い道具などを調査しました。

「ある民家を訪ねたときのことです。その家の方が、みかんの入ったマタタビのざる

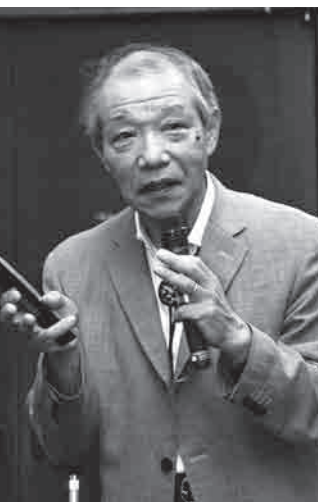
を隠してしまい、プラスチック製の容器に入れ替えようとしていました。わたしは『待って。そのざるを見せてください』と止めました」

当時、どの家にもあったマタタビのざるに目を向ける人はいませんでした。宮崎先生は「遠い昔から使われてきた道具は、長い年月をかけて今のかたちがある。山の恵みを頂き、自然と共生しながら作られる。丈夫で使いやすい。素晴らしいデザインなのです」と教えてくれました。

身近にあった道具の価値に気付く、宮崎先生の助言を受けながら、昭和56年に「生活工芸運動」が始まりました。

三島町名誉町民
宮崎 清 先生

「生活工芸運動」を提唱し、現在までアドバイザーとして尽力されている。その功績により平成19年、初の三島町名誉町民となる。千葉大学理事・副学長を歴任し、平成20年3月に退官。現在、放送大学千葉学習センター所長、千葉大学名誉教授。千葉県習志野市在住。山梨県出身、昭和18年生まれ、66歳。



伝統工芸士
久保田 節子さん

平成2年から8年間、生活工芸館の編み組指導員を務め、ヒロロ細工のデザイン開発と町民への指導に携わった。平成19年に東北では女性初の伝統工芸士となり、同年秋の叙勲で瑞宝単光章。現在も農業をしながらバッグ作りに励む。昭和6年生まれ、78歳。

町ぐるみの運動に発展
多くの町民に広まる

「生活工芸運動」は、町ぐるみの大きな施策となりました。編み組細工を学ぶものづくり教室や、町民から作品を募集する生活工芸品展などを開催し、生活工芸の振興を図ってきました。昭和61年には、国の補助を受けて生活工

かご作りの技法で
バッグをデザイン

芸館が完成。編み組細工や木工などを体験できる施設として、子どもたちや一般客へも伝統的なものづくりを広めてきました。「三島町生活工芸憲章」には、伝統的な技術を活かして山村の豊かな暮らしをつくるという「生活工芸運動」の心が書き記されています。

生活工芸の研究者として勤務した西牧研治さんは、抱えバッグやショルダーバッグなど、現代生活の中で使える編み組細工のデザインを考案しました。当時、編み組指導員だった久保田節子さん（入間方）は、かご作りの技法を用いて、西牧さんがデザインしたヒロロ細工の試作を重ねました。この二人の試行錯誤によって、山仕事用のかごが現代生活の中で使えるバッグに生まれ変わったのです。久保田節子さんが作った品格あるバッグは、皇后美智子さま、皇太子妃雅子さまへも届けられています。

生活工芸の振興に尽力
西牧 研治さん

千葉大学工学部工業意匠学科卒（宮崎清先生の研究室）。企業のデザイナーを経て、昭和58年から8年間、三島町で生活工芸の研究者として勤務。編み組細工のデザイン開発、生活工芸の普及に尽力した。現在、JA長野開発機構、地域開発課長。



ヒロロ

日陰、湿地などに自生する草で、ホンヒロロ（ミヤマカンスゲ）とウバヒロロ（オクノカンスゲ）がある。根を残して葉を採り、乾燥させて縄を織う。ヒロロ細工には、ほかにモワダ（シナノキの薄皮）、アカソ（イラクサ科）、カラムシ（イラクサ科）などの材料が使われる。





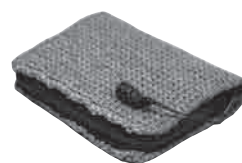
五十嵐 文吾さん

いがらし・ぶんご 大登 伝統工芸士

三島の生活工芸は、 たいしたものですよ。

子どものころは、おもちゃもなかったし、遊び道具だって自分で作りました。ざるなどの道具作りは、親がやっているのを見よう見まねで…。父が作ったマタタビのざるは、50年たった今も使えます。多くの町民に広まった生活工芸は、たいしたものですよ。本当に自慢できる町づくりだと思います。

平成17年3月、長郷千代喜さん（間方）と共に三島町初の伝統工芸士となる。同年秋の叙勲で瑞宝単光章。奥会津三島編組品振興協議会、品質管理委員長などを歴任。



角田 タケノさん

つのだ・たけの 浅岐

難しくてできないと思っていた。 やってみたら楽しくて。

角田キイコさんに勧められて、3年前にヒロロ細工を始めました。以前は「こんなに細かい手仕事、わたしにはできない」と思っていたのですが、始めてみると楽しくて、やめられなくなりました。10月の「会津の編み組工芸品展」では、ヒロロとモワダで作った巾着を出品し、テレビの生中継で訪れたタレントの片岡鶴太郎さんに買っていたきました。

第5回会津の編み組工芸品展（H21）
下郷町長賞
作品 / 巾着



角田 キイコさん

つのだ・きいこ 浅岐

とにかく面白い。 デザインも工夫しています。

もともとセーターなどを編むのが趣味でした。ヒロロ細工は時間のかかる手仕事ですが、少しずつ編んでいく作業がとにかく面白いです。隣近所の人にも勧めました。夫も山ブドウ細工やマタタビ細工をしているので、「これはよくできたな。こっちはもう少しだな」などと言い合いながら楽しく作っています。ヒロロ細工を始めて10年、本当に面白くてやめられません。

第28回三島町生活工芸品展（H21）
大賞
作品 / ヒロロショルダー、ポーチ付き



諏訪 フヂエさん

すわ・ふじえ 浅岐

ヒロロ細工を始めて、 つくづくよかったと思います。

ヒロロ細工を作り始めて10年ぐらいになります。最初は生活工芸館で久保田節子先生に習いました。スカリ（山仕事用のかご）くらいは作ったことがありましたが、バッグ作りを始めてみたら面白くて…。つくづくよかったと思います。もし始めていなかったら、テレビばかり見て過ごしていたかもしれません。畑仕事の合間に作るヒロロ細工が毎日の楽しみです。

第5回会津の編み組工芸品展（H21）
福島民報社賞
作品 / ヒロロ手提げかご





3



2



6



5



4

2_ かまくらを作って遊ぶ子どもたち。雪を知らない特別町民にとって、三島町は別世界だった
3_ トウモロコシの皮をむく子どもたち
4_ 雪の会津西方駅に降り立った特別町民の家族。右端がトモノさん
5_ 枝豆を収穫し、マタタビのざるに入れる子どもたち。農家での初めての体験は新しい発見の連続だった
6_ 都会の人々にとって山村の民家は、大きく、懐かしく、温かい場所だった



1

第2章 ふるさと運動

「お母さん、星が近いね」
夜空を見上げた子どもが口にした素直な感動。
畑で芋を掘ったり、きゅうりをかじったり、
ありのままの山村を体験した思い出。
「ふるさと運動」を通した出会いと感動は、
今も語り継がれています。

1_ 小堀トモノさんの家を訪れた特別町民の家族の皆さん。トモノさんは「ふるさとの家」として東京などの特別町民を受け入れ、ありのままの田舎暮らしを体験してもらった。後列右から3人目がトモノさん（昭和52年ごろ）

特別町民との出会い

ふるさとの家の感動体験

大反響を呼んだ
日本初の試み

昭和49年に始まった「ふるさと運動」は、「理想のふるさとを一緒につくりましょ

う」という呼び掛けで、都市と農山村の交流による地域づくりを目指したものです。民家を「ふるさとの家」として親せきのように泊まることができる「特別町民制度」は、

日本初の試みで大きな反響を呼びました。当時、役場職員だった齋藤茂樹町長は「日本経済新聞に掲載されたことで申し込みが殺到し、役場の電話が鳴りやみませんでした」と振り返ります。

昭和50年には会員が849世帯、「ふるさとの家」の利用者は5884人を数えました。特別町民からは「田舎暮

と振り返ります。

※現在、特別町民には年末にふるさと小包をお届けしているほか、広報みしまの毎月送付や観光情報の提供などを行っています。また、温泉などの施設は町民料金で利用できます。三島町を応援してくださる方の入会をお待ちしています。

●年会費 1世帯につき1万円
(町出身者は5千円)
図 三島町役場産業建設課文化観光係
☎0241(48)5533

夏は芋掘り、冬は雪遊び。みんなでワイワイ。
特別町民の皆さんが、
三島の良さを教えてくれました。

「ふるさとの家」として
特別町民を受け入れた

小堀 トモノさん（西方）



昭和49年から平成2年ぐら
いまで、「ふるさとの家」と
して特別町民の皆さんを受け
入れました。一緒に芋を掘っ
て芋煮をしたり、かまくら
作って遊んだり、本当に楽し
い思い出ばかりです。今でも
お便りをくださる方もいま
す。昭和58年から60年のころ
の宿泊が一番多かったです。
一度に二家族を受け入れたこ
ともありました。

わたしは夫を早くに亡く
し、3人の子どもを育てまし
た。夏休みなどは東京から来
た子どもたちと一緒にプール
に行ったり、美坂高原に行っ
たり、トウモロコシを収穫し

たり、冬休みは雪遊びをし
り。。「ふるさとの家」は、
わたしの子どもにとっても楽
しく、貴重な経験になったと
思います。何気ないことでも
喜んでくれる特別町民の皆さ
んに、逆に山村の良さを教え
られたように思います。

裏磐梯や山形などの先進地
へ研修にも行きました。調理
師の免許も取りました。民宿
経営という夢がありました
が、そこまでは実現できませ
んでした。平成2年ごろ、法
的規制などもあつて宿泊の受
け入れはなくなりました。特
別町民の皆さんとの交流は昔
のことになってしまいました

が、一生忘れられない大切な
思い出です。

今は一人暮らしをしながら、
桐の里倶楽部の手伝いな
どをしています。お客さん
の中には、わたしの顔を覚えて
いて声を掛けてくださる方も
います。昨年、隣近所の
一人暮らしや高齢者世帯など
に声を掛けてサロンを始め
ました。軽い運動をしたり、歌
ったり、温泉旅行に行ったりし
て楽しみながら、お互い支え
合っています。

今の三島町は以前ほどの活
気はないように思いますが、
地元の良いものを活かして町
づくりを進めてほしいです。



特別町民の方から小堀トモノさんに
届いた暑中見舞いのがき
(文面) 暑中お見舞い申し上げます。
楽しい楽しい体験をさせていただき、
ありがとうございます。子どもたち
の大切な思い出です。来年も遊び
に行かせてください。

あの感動から35年「ふるさと運動」の心

今も受け継がれる

信念を貫いた
故佐藤長雄前町長

昭和40年代から50年代にか
けては、地域振興といえは企
業誘致による大規模な開発で
した。昭和62年にはリゾート
法ができ、ゴルフ場やスキー
場など、日本中が開発一色に
なりました。

故佐藤長雄前町長は、企業
誘致による開発の危険性を早

くから訴え、「地域づくりは
自分たちでやらなければなら
ない」という信念を持ってい
ました。豊かな自然をそのま
ま残し、「地域が持っている
大事なことは何だろうか」と
追及しました。その中で発案
されたのが「ふるさと運動」
です。

リゾート法は余暇を楽しめ
る場所を整備し、国民経済を
発展させることが目的でし

た。しかし、どこでも同じよ
うな開発が進められ、「地域
が本来持っている特性が活か
されていない」という批判も
出ました。さらに施設の閉鎖
や企業の撤退が相次ぎ、地域
経済や地方財政を圧迫してい
る例も少なくありません。

「地域づくりは自分たちの
手で」。ふるさと運動から続
く町づくりの理念は、今も変
わりません。

町おこしをかけた三島フォーラム 山村の価値を見つけ、夢を描いた

故 安達 生恒 先生

大正7年、新潟県小千谷市生ま
れ。島根大学教授などを経て、
社会農学研究所を開設。農業の
近代化が農村を荒廃させたと主
張し、徹底した聞き取り調査を
実施。考え行動する農家の育成
に努める。平成12年に82歳
で他界。著書に「むらの戦後史」
「日本農業の選択」など。



このフォーラムによって山
村の魅力を再認識し、「有機
農業運動」「地区プライド運
動」「健康づくり運動」など
の町づくりが生まれました。



故 佐藤 長雄 前町長

旧西方村役場職員、三島町役
場職員、三島町助役を経て、
昭和43年9月に三島町長に
初当選。以来、通算23年間在
職し、ふるさと運動、生活工
芸運動など山村独自の施策を
展開。全国から注目を浴びた。
平成15年4月、84歳で他界。

ふるさと運動からの流れ

昭和49年	「ふるさと運動」始まる
昭和56年	「生活工芸運動」始まる
昭和57年	第1回三島町生活工芸品展(以後現在まで開催) 第1回三島フォーラム(以後10回開催) 「有機農業運動」始まる
昭和58年	「地区プライド運動」「健康づくり運動」始まる
昭和59年	桐加工場完成
昭和61年	生活工芸館完成
昭和62年	第1回桐の里リレーマラソン(以後19回開催) 第1回ふるさと会津工人まつり (以後現在まで開催)
平成14年	第1回全国編み組工芸品展(以後現在まで開催) 情報物産館(尾瀬街道みしま宿)オープン 「みしま工人郷」「てわっさの里みやした」始まる
平成15年	「奥会津編み組細工」国の伝統的工芸品に指定
平成16年	早戸交流拠点施設(早戸温泉つるの湯)オープン
平成17年	食鳥処理施設(会津地鶏みしまや)完成
平成20年	「三島のサイノカミ」 国の重要無形民俗文化財に指定



昭和57年に三島フォーラムが始まった当時は、「フォー
ラム」という言葉もあまり知られていない時代だったが、
参加した皆さんは積極的に話し合った。故板橋正雄さん
(滝原)、二瓶正雄さん(大谷)、小島純さん(宮下)、阿
部通利さん(桧原)、五十嵐健二さん(宮下)など多くの
町民が、自分の取り組みや目標などを発表した。フォー
ラムに参加した有識者は、星寛治さん(農業)、溝口栄治
さん(大分県宇佐市商工会長)、世古一穂さん(生活科学
研究所)、高森寛子さん(作家)、古賀学さん(日本観光
協会)など。写真は昭和59年に町民センターで開催さ
れた第3回三島フォーラム。

写真/屋号、野仏、湧き水、遺跡などを書き込んだ西方地区の地図。西方地区では地域で語り継がれてきたことを後世に伝えるために、住民の皆さんによって記録誌の作成が進められている。その調査の一つとして地図への書き込みを行っている。

35年の歴史を経て、今も続いています。

自分たちの手で行う理想のふるさとづくりは、

未来を目指して動き出している人たちがいます。

もう一度地域を見つめ、

人口減少が続き、課題が山積する中で、

生きがいとなった「生活工芸」

町づくりの信念を根付かせた「ふるさと運動」

たくさんの人たちが夢を描き、

理想のふるさとを目指してきました。

第3章 未来へ 歴史に学び 地域を見つめて

歴史を語る一枚の写真



昭和52年3月、歌手の故テレサ・テンさんが訪れたときに撮影された写真。左から、栗城芳雄さん、渡部重記さん、福田耕士さん、菅家正宏さん、齋藤茂樹町長（当時役場職員）、故馬場順夫さん、故馬場利幸さん（当時町長）、故羽田英芳さん、故テレサ・テンさん、秦兵輔さん、海老名健さん、飯塚徳雄さん、細堀清さん、右端が故小堀良徳さん

あの時、理想のふるさとを目指して走り出した。

町づくりの開拓者たち

この写真は、歌手の故テレサ・テンさん（写真中央）が特別町民となり、ふるさと荘付近で白樺の記念植樹を行ったときに撮影されたものです。当時、町づくりに取り組んだ役場やふるさと振興公社などの関係者の顔ぶれが写っています。

テレサ・テンさんは昭和52年3月16日、新曲「ふるさとはどこですか」のPRのために三島町を訪れました。レコード販売やサイン会では、町民の大歓迎を受けました。ふるさと荘に一泊し、翌日に白樺の記念植樹

が行われました。

昭和52年は「ふるさと運動」が始まって4年目。当時、特別町民制度という取り組みは、どこにもありませんでした。新しい過疎対策として全国から注目され、視察の受け入れだけでも忙しかったといえます。町の人たちは自信と希望に満ちあふれ、理想のふるさとを目指して走り回りました。美坂高原の整備、生活工芸館、物産館、温泉施設の建設などが着々と進められました。また、「有機農業友の会」や「パープルタウン宮下

を創る会」など住民主体の活動も次々に始まり、「地域づくりは自分たちの手で」という信念が根付きました。

「ふるさと運動」の開始から35年、時代は大きく変わりました。高速交通網の発達やインターネットの普及により、山村に住みながらも暮らしは世界中とつながっています。その中で、農山村の自然、文化を志向する人々は、ますます増えているのも事実です。町づくりの開拓者たちが描いた夢は、今も未来へと続いています。

もつと再発見 ずっとこの町で

次はあなたが、
町づくりの開拓者です。

現在、町内で行われているさまざまな活動を掲載しました。すべて町民の皆さんが主体です。これらの取り組みは、きっと未来へつながります。

1 地区の自然と歴史を活かし 遊歩道整備、サロン事業、記録誌作成



西方地区



右_カタクリの花とオオヤマザクラの名所「大林ふるさとの山」。カタクリは約4割に広がっている。4月中旬から下旬が見ごろ

上_地区づくりについて話し合う皆さん

西方地区には、カタクリの花とオオヤマザクラが楽しめる「大林ふるさとの山」や、子どもの成長を願う「鬼子母神」などがあります。また、集落を南北に貫く街道には、宿場町の面影が残っています。山垣光英西方区長は「まずは地区にあるものの掘り起こしです。お年寄りしか知らない言い伝えや、石仏、湧き水などもたくさんあります。分からなくなってしまう前に記録し、後世に伝えたいです」と話しています。

西方地区では今後3年間の計画で、遊歩道の整備、地域サロン事業、記録誌の作成などが行われます。



早戸地区

右_早戸温泉周辺に新しくできた遊歩道には、足に優しいウッドチップが敷かれている

下_地区の歴史を学ぶ講演会に集まった皆さん



早戸地区には、昔から湯治場として親しまれてきた早戸温泉があり、年間約6万人が利用しています。また、祠や野仏が点在する「神々の道」や、虫供養などの伝統行事も大切に受け継がれています。これらの地区の宝を活用し、訪れた人々との交流を広げることが目指しています。現在、温泉周辺の遊歩道の整備が進められており、今後は観光ガイドの育成、ガイドマップの作成なども行われる予定です。

町内で最も高齢化が進んでいる早戸地区。住民の皆さんが支え合って地区づくりに取り組んでいます。



左_荒れていた休耕地を開墾して、そばを栽培。収穫する中丸一雄さん(右)と細堀清さん(左)

上_訪れた観光客にも好評の手打ちそば。春には山菜の天ぷらなども添えられる

宮下そば組

宮下そば組は、毎月第2日曜日、「てわっさの里みやした」の定期公開に合わせ、手打ちそばの店を開いています。今年は宮下地区の休耕地を活用して、そばを栽培しました。次の開店日には、おいしい新そばを味わうことができます。宮下そば組のメンバーで、宮下・荒屋敷地区地域懇談会の佐久間宗一会長は「町内には荒地が目立っています。荒地を活用すれば、農作物の栽培と同時に景観も良くなります」と話しています。きれいな町づくりと、おいしいそば作り。楽しみながら和気あいあいと取り組まれています。

左_改修準備が進められている宮下地区の旧丸角旅館

下_浅岐地区で伐採された樹齢約350年の栃の木材



宮下住マイル会

今年6月に結成された宮下住マイル会は、町内の空き家を改修して町並みを整備するとともに、田舎暮らし体験などの交流事業を展開し、「スマイル」があふれる元気な地域を目指しています。町内6団体29人が加入しており、連携しながら事業を進めています。

現在、空き家となっている旧丸角旅館の改修準備を進めており、田舎暮らし体験施設として活用する計画です。代表の栗城佐さんは「空き家改修には地域材を使います。間伐材の利用や良質な木材の生産にもつながっていきたいと考えています」と目標を掲げています。

あなたの一步が 町の未来を開く

編集を終えて

ふるさと運動や生活工芸運動を振り返り、町づくりはいつも、町を知ることから始まるのだと実感しました。宮崎清先生はいつも「地域の華」という言葉を使います。それは土地に根付いている魅力のことだと思います。編み組細工も、おいしい農産物も、美しい景観も、年中行事も…。

「三島の華」はたくさんあります。それらはすべて、人の手によって受け継がれ、守られ、磨かれてきました。その華を生かすか殺すかは、今ここで暮らしているわたしたち次第です。この小さな町で、大きな夢を描き、行動してみましよう。努力は裏切りません。仲間と支え合い、未来へ向かって一步前へ踏み出しましょう。

諏訪フヂエさんの「ヒロ口細工を始めて、つくづくよかったと思う」という言葉が忘れられません。こんなにうれしい言葉はありません。三島に生まれて、三島で暮らして、三島で何かに取り組んで「本当によかった。三島がふるさとでよかった」と心から思うことができたなら…。

特集「町づくりの軌跡」
終わり

3 休耕地を活用して、そばを栽培 毎月一回、手打ちそばの店を開く



4 旧丸角旅館を地域材で改修 田舎暮らし体験施設に



言い表せない
ふるさとへの
思いを胸に



森の校舎カタクリで行われた
首都圏三島会総会

首都圏三島会総会 三島で開催

首都圏三島会第33回総会は10月17日、森の校舎カタクリで行われ、首都圏に住む町出身者約30人と町関係者が参加しました。片山正雄副会長（松原出身）は「ふるさとはいいですね。懐かしい風景、山々の紅葉、最高です。言い表すことのできないありがたみを感じています」と話していました。また、角田伊一さん（川井）と会津古城研究会の石田明夫会長が、会津と三島の歴史について講演しました。



懇親会であいさつする渡部保男
首都圏三島会会長（高清水出身）

フラビーズ2連覇
Sixdiueは
3連覇達成



1部で優勝したフラビーズの
皆さん

ビーチバレーボール大会 13チームが参加

ビーチバレーボール大会は9月28日・29日の2日間、三島中学校体育館で開催されました。年齢制限のある1部に6チーム、制限なしの2部に7チーム、計13チームが参加して熱戦を繰り上げました。

1部ではフラビーズが春に続き2連覇。2部ではSixdiueが昨年秋からの3連覇を達成しました。最優秀選手には長谷川雄一さん（フラビーズ）、舟木孝幸さん（Sixdiue）が選ばれました。



2部で優勝したSixdiueの皆
さん

一つだけ
白いサツマイモ
そのお味は？



白いサツマイモを収穫した
佐々木マキさんと邦雄さん

佐々木さんの畑から 掘り出される

佐々木邦雄さん（松原）が栽培する畑で、白いサツマイモが採れました。通常の赤いサツマイモにまぎれて一つだけ、邦雄さんの母・マキさんが掘り出したそうです。佐々木さんは「これは非常に珍しいと思い、食わずにとっておきました。突然変異でしょうか。果たして味はどうですかね」と話していました。

この出来事は、秋の収穫時期の珍しい話題として、新聞にも掲載されました。



白いサツマイモを収穫した
佐々木マキさんと邦雄さん

ピカソ
シャガール
巨匠の版画に感動



桐の里美術館に展示された世
界の名作版画

世界の名作版画 県立美術館移動展

福島県立美術館移動展は10月24日、交流センター山びこ・桐の里美術館で始まりました。ピカソの「二人の裸婦」、シャガールの「死せる魂」など20世紀を代表する巨匠たちの版画64点が展示され、来場者は熱心に見て回りました。また、三島出身の画家酒井三良が会津の四季を描いた作品4点も展示されました。齋藤茂樹町長は「この展示施設をしっかりと運営していきたい」とあいさつしました。（移動展は11月8日まで）



県立美術館の伊藤匡学芸課長
の作品解説を聞く来場者

半澤政人さんと
轡田倉満さんの
アートワーク

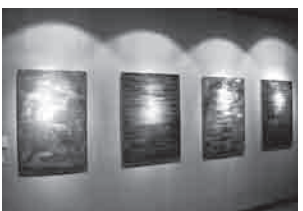


半澤政人さんの作品
「ひとと子」

いまここカフェの ima coco 展

imacoco展は10月25日から11月6日まで、いまここカフェ（旧物産館）で開催され、半澤政人さん（名入）と轡田倉満さん（宮下）の作品が展示されました。三島の自然の中で創作活動をする二人の芸術家。今後の活躍も期待されます。

半澤政人（はんざわ・まさと）郡山市生まれ。多摩美術大卒。1993年、三島町に移住。二記会入選、フィレンツェ賞展入選など受賞多数。
轡田倉満（くつわた・くらみつ）福島市生まれ。モダンアート展入選。ポーランドなど海外でも活動を展開。2007年、三島町に移住。



轡田倉満さんの作品「かけら」

子どもたちも
芸術家
文化祭で展示



文化祭で展示された子どもた
ちの作品

ワンダークラブ 手形で絵を描く

保育所入所前のお子さんを対象としたワンダークラブは10月21日、三島保育所で行われ、4組の親子が参加しました。今回はクレヨンと手形で、もみじの木を描きました。かわいい手形のもみじが、作品は文化祭で展示されました。

ワンダークラブは毎月行っています。小さなお子さんと一緒に、どうぞご参加ください。次回の予定など、詳しくは教育委員会までお問い合わせください。☎(48)5599



楽しく絵を描いた子どもたち

キジ32羽
ヤマドリ2羽を
川井地区から放す



放されたキジ

狩猟解禁は 11月15日から

狩猟解禁を前に10月7日、キジ、ヤマドリの放鳥が川井地区で行われました。放鳥は狩猟資源の確保のために毎年行われています。川井地区の畑地からキジ32羽、ヤマドリ2羽が放されました。狩猟期間は11月15日から2月15日までの3カ月間です。放鳥を行った三島町猟友会の二瓶政一会長（名入）は「狩猟者の皆さんは事故のないように十分注意し、安全な狩猟をお願いします」と話していました。



川井地区で放されたキジとヤ
マドリは元気に飛び立った

みしまの出来事

身近な情報をお寄せください。☎(48)5515





町民課 町民生活係 主事
宗形 和哉
むなかた・かずや 23歳 田村市出身

大学では主に地域行政について学びました。その経験を生かし、三島町の発展のために頑張っていきたいと思っています。町民の皆さんが快適な毎日を送れるよう基盤をしっかり固め、生活を全力でサポートすることを目指します。三島町民として、さまざまなことに取り組んでいきたいと思っていますのでよろしく願います。

○趣味 演劇鑑賞
○学歴 福島大卒
○好きな言葉 切磋琢磨



町民課 保健福祉係 主事
大場 まゆみ
おおば・まゆみ 28歳 会津若松市出身

子どものころから歴史と美術が好きだったので、歴史と文化、芸術が深く根付く三島町に就職でき本当に幸せに思います。前職では高齢者と家族への生活支援に携わりました。その経験を生かし、少しでも皆さんの暮らしのお役に立てるよう努めていきます。

○趣味 読書、旅行
○特技 スケッチ、早歩き
○学歴 日本福祉大卒
○好きな言葉 成せばなる成さねばならぬ 何事も

10月1日付採用 三島町役場の新人を紹介します



表彰状を手にする中丸一雄さん

中丸一雄さん(宮下) 防犯功労者表彰

中丸一雄さんが防犯功労者として、(社)福島県防犯協会連合会と福島県警察本部から表彰されました。中丸さんは「桐の里三島町安全パトロール隊」として、子どもたちの登下校に毎日付き添い、事故や犯罪を防止しています。表彰式は10月16日、喜多方プラザで開催された第30回全国地域安全運動福島県民大会において行われ、中丸さんに表彰状が手渡されました。



表彰を受ける秦兵輔会長(右)

交通安全協会三島分会 秦兵輔会長(大石田) 福島民友新聞社特別表彰

交通安全協会三島分会は、10月27日に白河市で開催された第48回福島県交通安全県民大会において、福島民友新聞社特別表彰を受けました。三島分会はカーブミラーの清掃や飲酒運転撲滅の呼び掛けなど、交通事故防止に尽力しています。



標高782mの美女峠頂上で記念撮影をした参加者

歴史ある街道を歩く

美女峠ウォーキングツアーに約70人参加

美女峠ウォーキングツアーは10月23日に開催され、約70人が参加しました。美女峠は三島町間方から昭和村野尻に通じる峠道で、藩政時代は主要な街道でした。40数年前、只見線の終点が宮下駅だった当時は、昭和村や只見町の人々はこの峠道を歩いて宮下まで来たそうです。美女峠(びんじょうぎとうげ)とは鎌倉時代の悲しい恋物語にちなんだ呼び名です。ツアーでは間方地区の美女峠入口から昭和村野尻までを約2時間半かけて歩きました。海老名健さん(桧原)が案内役を務め、峠道にある一里塚や清水などの解説をしました。参加者は街道の歴史に思いを寄せ、紅葉を楽しみながら歩きました。

主催/美女峠ウォーキング実行委員会(三島町、昭和村、三島町観光協会、昭和村観光協会、会津若松建設事務所、宮下土木事務所など)



齋藤茂樹町長から委嘱状を受ける目黒三和子さん

教育委員に目黒三和子さん(滝谷)

三島町教育委員の委嘱は10月1日、役場町長室で行われ、目黒三和子さんに齋藤茂樹町長から委嘱状が手渡されました。子どもたちの教育環境の充実のためによりしくお願いします。

本 町民センター図書コーナー ゆめぽけっと

〈本の紹介〉
図書コーナー運営ボランティア
北館 緑さん

●利用時間 月～土 9:00～21:00
日・祝 9:00～17:00
●お休み 年末年始
●図 教育委員会 ☎(48)5599

一般向け

天地人 上・下巻

火坂雅志・著
NHK出版

NHK大河ドラマ「天地人」の原作です。直江兼続は6歳で上杉景勝に小姓として仕え、後に上杉家の執政となります。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が天下統一を目指した戦国時代。兼続は「義と愛」の心で上杉家を守り抜きました。



小学生向け

りゅうの目のなみだ

浜田廣介・作 植田真・絵
集英社

人々から恐れられているりゅうを、かわいそうだと思う子どもがいました。子どもはりゅうに会いに行き、誕生日に招待しました。一度も優しい言葉を掛けられたことがなかったりゅうは、涙を流しました。



小学生向け

ふしぎな木の実の料理法

岡田淳・著
理論社

こそあどの森に住むスキッパー少年に、硬い実が届きました。その料理法を森のみんなで考えますが失敗してばかり。春になり実から芽が出てきました。それはポアポアの種だったのです。



幼児向け

まちのねずみといなかのねずみ

イソップ・原作 いもようこ・文 絵
金の星社

まちのねずみは退屈で夜は真っ暗の田舎暮らしが好きになれません。反対に、いなかのねずみは車や人間や猫にびくびくしながら暮らす町が好きになれません。



これからの行事予定 town schedule

11月8日(日)

交通安全町村民大会
13:00～ 森の校舎カタクリ体育館

11月15日(日)

おおたに新そばまつり 10:00～ 大谷活性化センター
三島町消防団防火パレード 8:30～ 三島町内

11月16日(月)～20日(金)

三島町の観光物産展 ※裏表紙をご覧ください。
11:00～ ふるさと情報プラザ(東京・有楽町)

11月20日(金)

第9回三島町歴史文化基本構想等策定委員会
14:00～ 町民センター

11月27日(金)

“地域でつながるみんなの輪”実践講座
10:00～ 町民センター

12月3日(木)

民生児童委員協議会定例会 13:30～ 福寿草

社会福祉協議会
地域ふれあいサロン

滝谷和楽塾
11月19日(木)10:00～ 滝谷集会所

高清水・小山いきいきサロン
11月20日(金)10:00～ 高清水集会所

社会福祉協議会 ☎(52)3344

無
人
駅
客
を
恋
す
る
秋
桜

稲
屑
火
の
煙
は
や
さ
し
狭
の
村

杣
飯
を
馳
走
と
し
て
客
迎
へ

芋
掘
り
の
仕
上
げ
確
かな
老
夫
婦

宮下志田タツノ

杣原片山祐一

歳時記
萌の会

みんなで健康づくり《保健事業の予定》
問 役場 町民課 保健福祉係 ☎(48)5565

足腰げんき教室(室内運動編)
11月 9日(月) 9:30～ 町民センター

4 カ月児健診
11月10日(火) 11:45～ 坂下厚生総合病院

乳がん検診
11月12日(木) 9:30～ 町民センター

機能訓練会
11月12日(木) 14:00～ 福寿草

キッズクッキング
11月14日(土) 9:30～ 町民センター

ヘルスアップうんどう教室
11月18日(水) 13:30～ 町民センター

乳幼児健診
11月19日(木) 13:00～ 町民センター

足腰げんき教室(水中運動編)
11月25日(水) 13:00 町民センター集合
河東学園プール

ヘルスアップえいよう教室
11月27日(金) 13:00～ 町民センター



ふるさと納税

町へのご寄付 ありがとうございます

吉戸勝様
(埼玉県所沢市)

佐久間雄幸様
(埼玉県川越市)

ご寄附ありがとうございました

町社会福祉協議会へ

ご遺志によるもの

角田光栄様(川井)

角田順一様(宮下)

一般のご寄付

福島県民共済生活協同組合
(創立25周年記念)

11月の納税

●国民健康保険税 第4期

●介護保険料(普通徴収) 第4期

●後期高齢者医療保険料(普通徴収) 第4期

※納期限は11月30日です。
忘れずに納めましょう。

問 役場 町民課 町民生活係
☎(48)5555

会津坂下警察署からのお知らせ

三島町では9月中、刑法犯は発生しませんでした。

振り込め詐欺被害防止
「それうそかも」運動実施中

㊟…相談する
(振り込む前に警察へ相談)

㊦…連絡する
(振り込む前に家族へ連絡)

㊧…うのみにしない
(相手の話をうのみにしない)

㊨…送金しない
(ATM、エクスパック、宅配便などで送金しない)

㊩…確認する
(名乗った本人、役場などに確認する)

㊪…もう一度確認する
(振り込む前にもう一度確認)

街頭犯罪等発生状況(1月～9月)

区 分	管 内	三島町
空き巣ねらい	1	
忍 込 み	4	
事 務 所 荒 し	2	
出 店 荒 し	7	
自 動 車 盗	2	
オートバイ盗		
自 転 車 盗	5	
自販機ねらい	3	
車上ねらい	6	
強制わいせつ		
街頭犯罪計	30	0
全 刑 法 犯	98	1

※全刑法犯には、街頭犯罪以外(器物損壊・暴行・傷害・万引き・詐欺など)の犯罪発生件数が含まれます。

自衛隊高等工科学校生徒
募集案内

自衛隊 福島地方協力本部

●募集種目

自衛隊高等工科学校生徒

●資格

中卒(見込み含む)17歳未満の男子

●受付期間

平成22年1月8日まで

●試験日・場所

平成22年1月23日
会津若松商工会議所

●入隊

平成22年4月上旬
問 自衛隊福島地方協力本部
会津若松出張所
☎0242(27)6724

年金相談
お気軽にご利用ください

会津若松社会保険事務所

年金問題については、国民の皆さまに大変ご心配をお掛けし、深くおわび申し上げます。昨年度に発送を終えた「ねんきん特別便」に加え、今年4月から「年金定期便」を発送し、国民の皆さまに年金記録を確認していただいております。また、年金相談体制の充実を図っていますので、お気軽にご相談ください。

●月曜日は午後7時まで相談を受け付けています

相談場所/会津若松社会保険事務所
会津若松市追手町5番16号

●11月の休日開庁日

14日(土)、15日(日)、28日(土)、29日(日) 受付時間 9:30～16:00

●ねんきんダイヤル

0570(05)1165

●ねんきん定期便専用ダイヤル

0570(058)555

問 会津若松社会保険事務所
☎0242(27)6951
役場 町民課 町民生活係
☎(48)5555

国税に関する電話相談
お気軽にご利用ください

会津若松税務署

国税に関するご相談は「電話相談センター」でお答えしております。

会津若松税務署 0242(27)4311

※音声案内に従って「1」を選択すると「電話相談センター」につながります。税務署職員へのご相談は「2」を選択してください。

ご存知ですか
検察審査会

会津若松検察審査会

検察審査員候補者は選挙人名簿をもとに選定されます。あなたもいつか候補者に選定されるかもしれません。検察審査会とは、検察官が被疑者を裁判にかけなかったこと(不起訴処分)の善しあしを審査することを主な仕事とするところで、選挙権を有する国民の中からくじで選ばれた11人の検察審査員によって組織されます。

申し立てられた事件を検察審査会で審査した結果、さらに詳しく捜査すべきである(不起訴不当)とか、起訴すべきである(起訴相当)という議決があった場合には、検察官はこの議決を参考にして事件を再検討することになります。起訴相当の議決に対して検察官が不起訴処分をした場合または法定の期間内に処分を行わなかった場合には、改めて検察審査会で審査します。

問 会津若松検察審査会事務局
☎0242(26)5725

三島町の人口と世帯
(10月1日現在)

人口	2,100	-3	出生	2
男	985	+1	死亡	2
女	1,115	-4	転入	3
世帯	855	+2	転出	6

※住民基本台帳による数値です。



桐の里 町民運動会

- 1_ 地区対抗綱引きで優勝した桧原チーム。2位は宮下チーム、3位は西方チーム
- 2_ 子どもから高齢者までが参加して盛り上がった輪投げオリンピック
- 3_ 開会式で選手宣誓をした板橋博さん（滝原）
- 4_ 地区対抗長縄跳びで51回を跳んで優勝したオール桑原チーム。2位は47回の西方チーム。3位は38回の浅岐・間方チーム
- 5_ お父さん、お母さんに熱い声援を送る子どもたち
- 6_ 生涯学習スポーツ表彰を受けた本名将くん（三島小6年・西方）



1



2



3



4



5



6

綱引きは桧原、長縄跳びはオール桑原が優勝 生涯学習スポーツ表彰は ソフトボール投げ、県大会 8 位の本名将くん

また、開会式の中で「生涯学習スポーツ表彰」が行われ、本名将くん（三島小6年・西方）に齋藤茂樹町長から表彰状が贈られました。将くんは福島県小学生陸上競技大会、男子ソフトボール投げに出場し、58回38秒を投げて8位に入賞しました。ベスト記録は61回97秒という強肩です。今後の活躍が期待されます。

桐の里町民運動会は10月11日、町民運動場で開催されました。地区対抗綱引きは、桧原チームが決勝戦で強豪宮下チームを破って優勝。地区対抗長縄跳びは、オール桑原チームが息の合った跳躍で51回を跳んで優勝しました。そのほか「輪投げオリンピック」―「愛のたずね人」など計9種目が行われました。この日は時折雨の降る天候でしたが、幼児から高齢者まで多くの皆さんが参加して楽しみました。



1

- 12_ 会津地鶏のバーベキューを楽しむ来場者。秋の高原で食べる三島産会津地鶏の炭火焼きの味は格別
- 3_ 美坂高原の大自然の中で子どもたちが走り回る
- 4_ 会津地鶏のひなを走らせて競ったひなレース。上位入賞者には地鶏1羽分の肉、新米3kg、桐小物などの特産品が贈られた
- 5_ 模擬店では地鶏の焼き鳥やから揚げなど、一級品の味が提供された
- 6_ 桐下駄飛ばし大会では30人近く飛ばした参加者もいた
- 7_ 地鶏のひなと触れ合う
- 8_ 会津地鶏の丸焼きを振る舞う小平和広会津地鶏みしまや社長



3



4



5



2



6

7

8

秋の高原で最高のバーベキュー 飼育から加工まで三島で一貫生産の地鶏を味わう 県内一早い美坂高原の新そばも

同時に開催された美坂高原新そばまつりでは、ざるそばや山菜地鶏汁などが出され、来場者は県内で一番早い新そばに舌鼓を打っていました。

会場には地鶏のひなと触れ合うことができるコーナーも設置されたほか、ひなを走らせて順位を競うひなレース、桐下駄飛ばし大会なども行われ、参加者の歓声が響いていました。

第8回会津地鶏まつりは10月4日、美坂高原で開催されました。来場者には地鶏1羽分の肉と地元野菜が販売され、会場に用意されたコンロと炭で、家族連れやグループごとにバーベキューを楽しみました。三島町産会津地鶏は、飼育から加工まで一貫して「会津地鶏みしまや」で行われています。飼育方法や飼料を工夫し、自然に近い環境で育て、安全でおいしい地鶏を提供しています。

奥会津三島町の

技

東京・有楽町へ

三島町の観光物産展

場所

ふるさと情報プラザ

東京都千代田区有楽町 1-7-1
有楽町電気ビルディング 1 階



出展予定

会津桐タンス(株) / 下三中洋三ツ割大戸、洋風桐タンス、米びつ、小タンス、まな板 ほか
(株)有紀 / 桐の自動ドア、桐小物 ほか

グルメみしま / みそのかくれんぼ (しそみそ巻き)、その他加工品

生活工芸館 / 奥会津編み組細工

道の駅尾瀬街道みしま宿 / 大根、白菜、漬物、キノコ、豆類 ほか

JA 会津みどり三島山菜加工場 / わらびたまり、うどたまり、会津ぜんまい水煮、地鶏ご飯・山菜ご飯・キノコご飯の素、なめこ缶詰 ほか

11月16日(月)～20日(金)

時間 11:00～19:00 ※最終日は 17:00 まで

会津桐タンス(株)から

「会津桐は材質が緻密で光沢があり、軽く、火に強く、防湿性に優れ、衣類や和紙などの保存に最適です。自社工場で確かな技術を持つ若い職人が丁寧に仕上げています」

道の駅尾瀬街道みしま宿から

「三島町産の野菜と、それを使った漬物です。安心でおいしいですよ」

JA 会津みどり三島山菜加工場から

「地元産、県内産、国内産の原材料を使用し、安全・安心に心掛け、おいしさにこだわった商品を提供します」

編集後記

▼三島の町づくりの歴史について、長谷川一雄さん(桑原、前教育長)に聞きました。その中で三島大橋の建設について話してくださいました▼「三島大橋が完成したのは昭和50年。橋の建設は昭和30年の宮下村・西方村合併時の計画の一つでした。町には橋を架けるお金などなく、国や県への要望を続けました。国の補助が決まった翌日、当時の佐藤長雄町長が全職員を集めて『やっと橋が架かる』と言った日の感動は忘れられません。20年もかかったのです」▼普段何げなく通っている三島大橋。その完成は町づくりの大きな一歩だったのです。「ふるさと運動」が始まって35年。町はたくさんの人々の努力の上に成り立っています。